



2018年6月

## こちらの責任

公益財団法人 国際通貨研究所  
名誉顧問 行天豊雄

トランプ旋風が世界を翻弄している。北鮮問題、貿易戦争、イラン問題、イスラエルの首都移転、NAFTA 改組、等々。意表を突き、大方の常識を逆撫でし、しかし無視できないと思わせる突きを次々と繰り出してくるパフォーマンスは他の指導者達がとても太刀打ちできない発信力を持っている。国際的メディアの多くはトランプに批判的で、彼のやっていることはいずれも古き良き国際秩序を破壊するものだから国際社会は一致して彼が正道に戻るよう説得すべきであるという論調だ。しかしトランプは一向に意に介さない。驚いたことに、米国内でのトランプの支持率は 40%で底を打ち、上向きの兆しである。とくに金融市場の参加者の間では、2020 年の大統領選はトランプ再選で決まり、という雰囲気になってきた。要するに、トランプに対してもう単なる異端者扱いは止めて、まともに対応しなくてはならないということだ。

日本にとって当面最大の関心事は貿易だろう。3 月に発表された鉄鋼・アルミへの 25%の関税引き上げの撤廃要求は同盟国中日本だけが無視され、次は日本にとって最重要輸出品目である自動車にも高関税を課そうという案が発表された。ゴルフをしたり、メシを食ったりのお友達外交はトランプ相手には全く意味がなかったということであろう。

トランプの貿易交渉はきわめて単純である。「ある国との間で、ある特定の品目の貿易で、米国の輸入が大き過ぎるか、輸出が少な過ぎるために、米国が何百億ドルの赤字になっている。それを減らさねばならない。」ということだ。そこにある 3つのキーワードは (1) 二国間、(2) 具体的な品目、(3) 数字、である。このトランプの土俵に一度乗ってしまうと、話は簡単だが非常に生々しいことになってしまう。トランプを満足させるためには、人為的な輸出規制か、人為的な輸入の上積みしかないだろう。

こういう正常な貿易を歪曲する措置が両国の産業構造や市場構造にどういった長期的な変化を齎すかは簡単には判らない。1980 年代の同じような日米貿易摩擦の結果行なわれた各種の輸出自主規制のその後を見ると、あまり長期的影響があったとも思えない。トランプの粗野な要求に対して日本が抵抗して切れるカードがあるなら、大いにそれを活用すべきだが、正直に云って日本にはカードがない。したがって短期的問題はそれなりにけりをつけねばならないだろう。

しかし同時に、トランプに対しては、貿易問題とはすぐれて当事国の産業構造やマクロ政策の反映であり、その解決には両国が協調して対応しなければならないことを説くべきだろう。米国がなさねばならぬのは、第一に消費財産業の競争力の強化であり、第二に家計貯蓄率の向上である。日本がなさねばならぬのは、第一に輸出依存の成長を内需主導に切り換えることであり、第二に自動車と電機に偏り過ぎた輸出の構造を変えることである。

第一期半ばのトランプ政権は国際的国内的アイデンティティを作り上げるのに悪戦苦闘している。世界と米国の将来を考えてこの政権とどう付き合うのかを決めるのはこちらの責任ということだろう。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへ寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2018 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934（代）ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>